



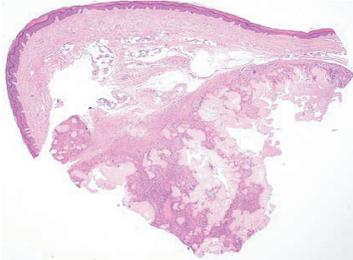
Gouty Tophus

77才、男性

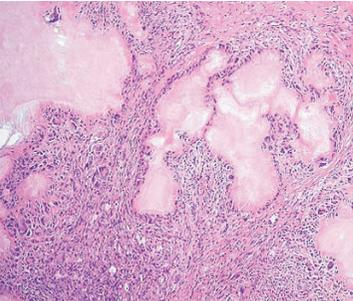
生検部位：左第1趾

臨床診断：慢性関節リウマチ、石灰沈着症

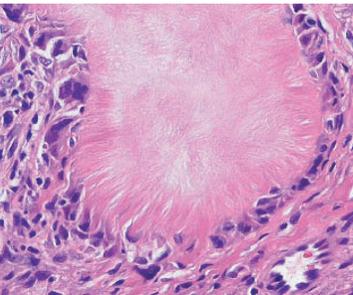
病理診断：Gouty Tophus



真皮内に境界明瞭な結節性病変が認められる。



中拡大像では淡好酸性の物質の沈着が塊状に見られ、その周囲を取り囲むように多彩な細胞が浸潤している。



無構造物質の実体は尿酸結晶で、針状の空隙を伴い、ホルマリン固定により淡好酸性となる。周囲の炎症は異物型巨細胞を含む異物肉芽腫の像をとり、palisading granuloma と呼ばれる。

◆ 第6回病理診断クイズ開始 ◆

第6回病理診断クイズが、10月より新たに始まりました。ホームページにて毎週金曜日に2問ずつ出題しております。診断を予想してぜひご投稿ください。

見事1位を獲得された方にはA Clinical Atlas of 101 Common Skin Diseases(AUTHOR: A. Bernard Ackerman, M.D.)を、連続1位を獲得された方には、当研究所皮膚病理研修無料券を差し上げます。

セミナー開催のお知らせ



皮膚病理指導医養成講座(年6回連続講座 東京)

研修医を指導するために必要な皮膚病理学

第5回目 12月 11日(土)：腫瘍性皮膚疾患2

第6回目 2月 5日(土)：腫瘍性皮膚疾患3

いずれも9時~17時

会場：山王病院 山王ホール(東京都港区)

皮膚外科手術のための皮膚腫瘍病理学講座

手術切除される頻度の高い皮膚腫瘍の病理組織像の解説と手術方法や切除範囲の検討

札幌会場：2004年11月23日(火)北海道大学 臨床大講堂
10時~16時

ただいま、参加お申し込み受付中です。

ホームページ、E-mail、ファックスにてお申し込み下さい

今後のスケジュール

2004,10,29~31

セミナー；第12回札幌皮膚病理セミナー
場所：慶應義塾大学医学部

2004,11,4

勉強会：札幌医科大学皮膚科カンファランス
場所：札幌医科大学

2004,11,12~16

学会：第8回日中合同皮膚科学会
CPCコメンテーター
場所：中国

2004,11,18

勉強会：皮膚をみる会
場所：札幌皮膚病理研究所

2004,11,23

セミナー：皮膚外科手術のための皮膚腫瘍病理学講座
場所：北海道大学 臨床大講堂

~各種お申込・お問い合わせは当研究所まで~

札幌皮膚病理研究所

〒001-0018

札幌市北区北18条西3丁目2-21

TEL 011-756-4810 FAX 011-756-4842

E-mail office@sapporo-dermpath.com

Website www.sapporo-dermpath.com

札幌皮膚病理研究所 NEWS



What's new?

第4回京滋難治性皮膚疾患研究会 (2004,10,9)

ウェスティン都ホテルにて



皮膚外科手術のための皮膚腫瘍病理学講座 大阪会場 (2004,10,10)

大阪市立大学
大講堂にて



今月の研修生をご紹介します。



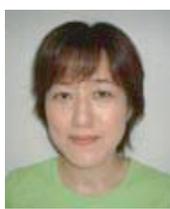
曾和 順子先生
(大阪市立大学皮膚科)
前列左

嘱託医のご紹介

当研究所の嘱託医をご紹介します



倉園 普子



村澤 章子

今後とも宜しくお願い申し上げます。

～アメリカ皮膚病理学会 参加記～ 福本 隆也

今年のASDP(American Society of Dermatopathology)のAnnual meetingは10月14日から17日までボストンで行なわれました。ASDPは昨年の雑誌:皮膚科の臨床で埼玉医大病理の清水教授が書いておられたように、教育的なセッションの多い皮膚病理の学会です。この文章を読んでからは是非行ってみたいと思っていましたが、札幌へ来たこともあって時間がとれたので今回、木村先生と参加してきました。

10/14 この日は16時からregistration開始。参加は前もって学会のWebSiteで申し込んでおきます。19時からDuel. fellowやresidentが約1時間のあいだに12題の発表をして、最終日に賞が与えられます。20時すぎからはInstructive cases with Instructive dermatologists という講演。5人の有名な先生が診断にひねりのあるcaseを口演するのですがどれも中身が濃くて勉強になりました。HIVに関連したものも二つあり、免疫不全に伴って日和見感染が起こったり、特異な組織所見をとることもあるため、そのあたりの知識にも精通しておく必要があると感じました。それ以外では研究所での話題と重なる講演も多く、共通の問題意識を感じました。終了は22時。木村先生にいろいろな先生に紹介してもらいました。Hideko Kamino先生とも握手。

10/15 学会は朝6:30!からです。少しポスターを見て、8時からのShort Course Iを途中まで聴講。LeBoit先生のGranulomatous slack skin, Hood先生のGVHD、Kamino先生のKamino bodyの講演を聞いてからSelf Assessment Bへ。これは一回に100人ずつ受講するのですが、実際に顕微鏡で標本を見て、自分で診断をつけていきます。これが難しい例が多く、全部で51題あって、1枚を2分で次の人に回さなくてはならず、ぐったり疲れてしまいました。ここで昼休み。サンドイッチをもらってメインホールで食べていると、すぐにoral sessionがはじまりました。14:30からは軟部腫瘍で有名なDr. Fletcherの講演を聞くことができました。さて、夜は少し離れたJ. F. Kennedy Library and MuseumというところでPresident's Reception & Banquetがありました。ここではアメリカでDermatopathologistとして仕事をしている日本人のDrと話しましたが、彼は毎日200!くらいのreportを書いているそうです。木村先生はいろんな人を見つけて話していますが、僕はあまりしゃべれず、こういう席では英語力がないのがとても残念です。

(右ページへ続きます)

41st The American Society of Dermatopathology

(2004,10,14~17) ボストンにて

今回のASDPには、
研究所より木村鉄宣と
研修中の福本隆也先生が
出席致しました。



右側: Philip.E.LeBoit先生 (第12回札幌皮膚病理セミナー講師)
左側: victor先生



10/16 朝はやはり6時半からです。まず鏡検室へ行って、Evening Slide Seminarの標本15例を前もって見ておきます。8時から12時までは昨日のSelf Assessmentの解説。5題ずつ出題したDrが解説していきます。日本ではあまり聞いたことのない疾患、病名が結構出てきます。午後は口演をきいて、ポスターを見学。ポスターも200枚以上あって、みるだけで大変です。日本からは埼玉医大の先生方がたくさん演題を出しておられました。19時からEvening Slide Seminarです。朝から見ておいた標本の解説があり、楽しみにしていたのですが、ビールをもらって飲みながら聞いていると、疲れもあって途中から猛烈な眠気が襲ってきて寝てしまいました。もったいない。終了は22時。

10/17 学会最終日です。木村先生が時間の都合でGottlieb先生のコースを別な時間帯に変更したので、余ったチケットを譲ってもらって、朝7時からのconsultation sessionへ。受講者8人で講師の先生とディスカッション顕微鏡で直接標本をみながら教えてもらうことができ、大変勉強になりました。テーマはmelanoma or not。そのあとはSlide libraryへ行って標本を順番に見ましたが、日本ではあまり出会わない感染症や、テキストでしかみたことのない病気をたくさんみることができました。Slide Libraryでは教育的な症例100例が、顕微鏡の横においてあって、標本と簡単な病歴、考えられる診断、その裏に解説と文献がついていて、参加者が自習することができます。多くの人が熱心に検鏡していました。残った時間でShort Course IIIを聞いて学会は12時で終了しました。学会の印象ですが、皮膚病理組織診断についての理解や能力の向上という目的にあったlectureやsessionがたくさんあり、どのsessionも刺激になりました。また、dermatopathologistがたくさんいることに驚かされましたし、アメリカの皮膚病理組織診断のレベルが高いことを感じさせられました。ただ、せっかく充実した学会なのに日本からの参加が少ないことはとても残念に思いました。ASDPのmeetingは2005年は10月20日から23日にシアトルであります。来年も是非、行きたいと思えますし、日本からも多くの方が参加されることを願います。

発刊責任者; 戸澤 愛美